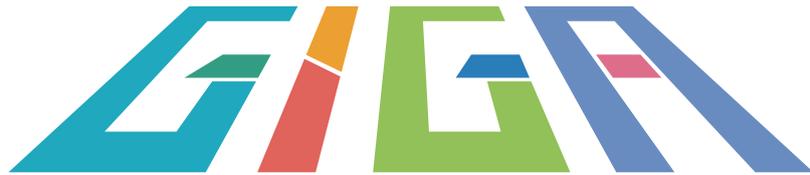


活用型情報モラル教材



ワークブック

ながせき



アドバンスド

2024

活用の手引

本書の使い方

3つのポイント

① 情報活用と情報モラルをセットで学ぶ

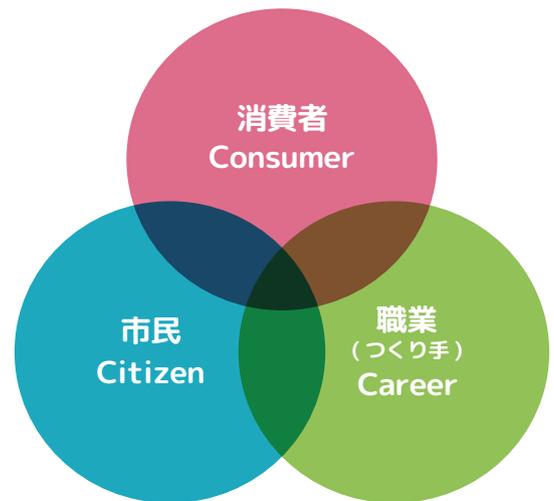
これまでの情報モラル教育は、情報のリスクのみが強調されることが多くありました。本教材では、リスクだけでなく、上手な情報活用の方法をセットにして学ぶことができます。例えば、端末を使って写真を撮る場合には、写真を撮るときの上手な撮り方と、写真を撮るときのマナー、さらにはトラブルを防ぐための方法やトラブルがあった場合の対応なども学ぶことができます。

② 50分でも15分でも実施できる

これまでの情報モラル教育は、学級活動や道徳、総合的な学習の時間などを使い、50分で実施するケースが多くありました。もちろん、50分でじっくりと考えることも重要ですが、本教材はそれに加えて、ICTの活用場面（写真を撮る、調べる、共有する…）において、モジュール（15分）を利用して、短く情報モラル等を学べる教材となっております。ぜひ、ICT活用の前後でご活用ください。

③ 3C（消費者、市民、職業人・つくり手）の視点で考える

これまでの情報モラル教育は、個人がどのようなモラルを身に付けるか、個人がどのようにリスクを回避するかという視点でつくられていました。本教材では、この視点を拡張し、3C（消費者：Consumer、市民：Citizen、職業人・つくり手：Career）の視点で作成しています。よき消費者として、リスクを回避し上手に使うことはもちろん、よき市民として、情報社会に参画し、社会に働きかける、よき職業人・つくり手として、新しい情報社会をつくっていくことを目指しています。



内容一覧

本編ページ	内容		
1	情報モラルを学ぼう(50分授業)		
2	社会の変化と情報モラル		
6	自分と相手との違い		
9	こんなつもりじゃなかったのに		
12	生活を見直そう		
15	災害時のSNSの使い方①		
18	災害時のSNSの使い方②		
21	災害時のSNSの使い方③		
24	「信頼」と「信用」		
27	「見えないお金」と上手につきあおう		
30	複利的思考を身につけよう		
34	SNSによる情報発信のリスク		
38	新しい情報技術とのつきあい方を考えよう		
42	情報活用能力を身に付けよう(15分授業)		
44	使う前に	WEBアプリやクラウドを活用しよう	活用スキル
46		AIと探究的な学び	活用スキル
48		リスクマネジメントを身に付けよう	情報モラル
50		クライシスマネジメントを身に付けよう	安全・トラブル対応
55	写真を撮る	目的に合わせて上手に写真を撮ろう	活用スキル
57		ショート動画の絵コンテをつくってみよう	活用スキル
59		どこまで写真を公開してもよいのかな	情報モラル
61		リスクの低いプロフィールをつくろう	安全・トラブル対応
66	調べる	先行事例や先行研究を調べよう	活用スキル
68		調べるべき「よい問い」を考えよう	活用スキル
70		情報の信頼性の確かめ方	情報モラル
72		どこまでが広告なのかな?	安全・トラブル対応
77	考える	アンケートの質問項目をつくろう	活用スキル
79		問題を深く分析してみよう	活用スキル
81		ルールの「ズレ」を考えよう	情報モラル
83		盗用を防ぐには	安全・トラブル対応
88	共有する	情報を上手に共有するには	活用スキル
90		発表を客観的に評価してみよう	活用スキル
92		批判と非難はどう違う?	情報モラル
94		チャットの悪口、どう止める?	安全・トラブル対応
99	つくる	見やすいデザインを考えよう	活用スキル
101		タイトルを考えよう	活用スキル
103		著作権はなんのため?	情報モラル
105		知的財産をどう守る?	安全・トラブル対応
110	交流する	多様な人たちと交流しよう	活用スキル
112		新しいアイデアを生み出す交流のまとめ方	活用スキル
114		どこまで伝えてよいのかな?	情報モラル
116		セキュリティを見直そう	安全・トラブル対応
121	家で使う	学習で上手に活用しよう	活用スキル
123		生成AIを保護者と一緒に体験してみよう	活用スキル
125		タイムマネジメントを身に付けよう	情報モラル
127		使いすぎてしまう時は	安全・トラブル対応
131	保護者の方へ		
132	ケータイ・スマホトラブル分類表		
133	家庭のルールを考えよう		
136	フィルタリングとアプリの設定		
138	インターネットにおけるコミュニケーションの特性		

よくある質問

Q. 50分の教材と15分の教材の違いはなんですか？

本教材には、50分で情報モラルを学ぶ教材と15分で活用スキル、情報モラル、情報セキュリティ・トラブル対応を学ぶ教材があります。50分で学ぶ教材は、HRや総合的な探究の時間などの時間を使ってじっくりと情報モラルについて考えることができます。15分で学ぶ教材は、各教科等で端末を使う場面で必要なものをサッと学ぶことができます。情報モラルだけでなく、上手に活用する方法やトラブルにあってしまった時のことも学べますので、必要に応じてご活用ください。

Q. どのような順番で進めればよいですか？

本教材は、最初から順番に進める必要はありません。例えば、活用場面で選んでいただき、写真を撮ったり、共有したりする場面でご活用いただいたり、トラブルで選んでいただき、トラブルを防ぎたい時にご活用いただいたりすることも可能です。15分・50分と区切りがあるので、学校の年間カリキュラムに差し込むこともできます。

Q. 自主学習でも利用できますか？

本教材は、自主学習でもご活用いただけますが、ドリル学習のように一問一答形式ではありませんので、おすすめは、授業の中で、個人で考えてからグループで共有する方法です。正解を学ぶのではなく、どのようにすれば上手に使えるのか、何がリスクなのかについて生徒達が話し合っていくことで、多様な考えに触れることを目的としています。

Q. 学校でのトラブルに対応していますか？

対応しています。活用の手引には、#端末の破損、#勝手に写真を撮る、などのように様々なトラブルのタグがありますので、そちらを参考にさせていただき、授業内容をご検討ください。

Q. デジタル・シティズンシップ教育に対応していますか？

対応しています。本教材では、3C（消費者、市民、職業人・つくり手）の視点から教材を構成しています。「消費者」としてモラルを身に付け、リスクから身を守ることはもちろんのこと、「市民」として情報社会に参画し、社会に働きかけること、さらには、「職業人・つくり手」として、新しい情報社会をつくっていくという内容が入っております。これらは、発達段階によって内容の比率が変わっており、小学校は消費者の内容、中学校では市民の内容、高校では職業人・つくり手の内容が多く含まれています。

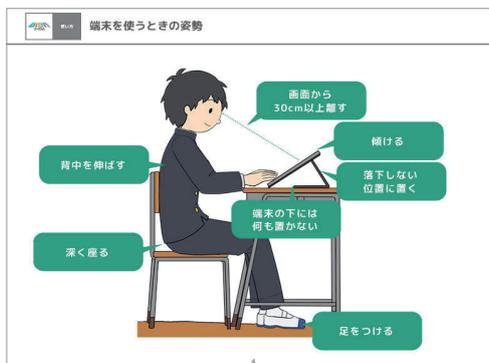
はじめに

端末の基本的な操作方法や家庭及び学校で使用する際のルールについて、説明しています。

これから扱う膨大な情報量を収集・発信できる端末について、①生徒達が情報モラルを考えていけるよう、②長時間使用による視力の低下等、健康上の観点からも、まずは使用する前にルールを定めましょう。

端末を使うときの姿勢

- 授業中の読み書きと同じように、端末を使うときの姿勢は大切です。視力低下や姿勢が崩れないためにも、正しい姿勢で扱えるようにしましょう。



健康チェック表

- 端末を長時間利用することでの健康被害も心配されています。特に、目の状態、筋肉や関節の状態、ストレスの状態を定期的にチェックするようにしましょう。また、保健室の先生や保護者の方とも連携しながら指導にあたるようにしましょう。

チェック項目		健康チェック表			「いつも」や「時々」を記入大人へ	
		当てはまるものを選びましょう。				
目の状態	1 目が腫れる。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない	・目を休ませて、目を閉じましょう。 ・目を洗って、目を冷やしましょう。 ・目が腫れたら（赤い目や涙が多い）と感じたら、保健室の先生や保護者の方に相談しましょう。	
	2 目が赤い。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない		
	3 目が乾く。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない		
筋肉や関節の状態	4 肩が痛い。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない		
	5 腕が痛い。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない		
	6 手が震える。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない		
ストレスの状態	7 目が腫れる、涙がある。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない		・目を休ませて、目を閉じましょう。 ・目を洗って、目を冷やしましょう。 ・目が腫れたら（赤い目や涙が多い）と感じたら、保健室の先生や保護者の方に相談しましょう。
	8 眠れない。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない		
ストレスの状態	9 イライラする。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない		・目を休ませて、目を閉じましょう。 ・目を洗って、目を冷やしましょう。 ・目が腫れたら（赤い目や涙が多い）と感じたら、保健室の先生や保護者の方に相談しましょう。
	10 集中できない。	<input type="checkbox"/> いつも	<input type="checkbox"/> 時々	<input type="checkbox"/> ない		

授業のねらい

- ・同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。
- ・文字だけで伝えると、感情が伝わらないので、誤解されやすいことに気付く。

授業の流れ (50分)

時間	学習活動	準備物等
25分	<p>1. カードで学ぼう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～5名のグループとなり、カード教材を準備する。 <p>あなたが、クラスの友達から言われて「嫌だ」と感じる言葉を一つ選んでみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードの中から1枚を選ばせ、グループの全員が見えるように提示させる。 <p>嫌だと感じた理由を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで理由を説明し合わせる。 <p>他の人に意見を聞いて、どんなことに気が付きましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで共有させ、気が付いたことを発表させる。 ・ネットの特性を読み上げ、「真面目だね」の文字だけで伝えた場合と、顔を見ながら伝えた場合の伝わり方の違いについて書いた考えを説明させる。 	○カード教材
20分	<p>2. カードで学ぼう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを裏返すように指示する。 <p>あなたが、SNSでクラスの友達からされて「嫌だ」と感じる順に並べてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5枚のカードを、「嫌だ」と感じる順に並べさせ、グループの全員が見えるように提示させる。 <p>一番嫌だと感じるカードを選んだ理由、一番嫌ではないと感じるカードを選んだ理由を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで理由を説明し合わせる。 ・クラスで共有させ、理由を発表させる。 <p>たかしさんと花子さんに、どんなトラブルが起きる可能性があるか、考えてみましょう。</p>	○カード教材
5分	<p>3. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でカード教材と一緒に体験してみるように伝える。 	

授業のねらい

- ・コミュニケーションにおける危険（リスク）を予想することの重要性に気付き、自分と他者との危険（リスク）の予想の「違い」に気付く。
- ・ネットの特性を踏まえ、危険（リスク）を回避しながら、自分の考えや気持ちを相手に伝える方法について考える。

授業の流れ (50分)

時間	学習活動	準備物等
5分	1. 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・トーク内容を読み上げながら、状況について確認する。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どちらがトラブルになるリスクが高いでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表し、クラスで共有する。 ・今日の授業では、「『こんなつもりじゃなかったのに』とならないために『リスクを見積る力』を身に付けること」を伝える。 	
20分	2. カードで学ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・3～5名のグループとなり、カード教材を準備する。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>このあと、どうなるでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのトークを15秒で「この先、グループの会話がどうなるか」を予想して、分類する。 ・その際、自分だけではなく、グループ内の他者がどのように感じるかも考える。 	○カード教材
20分	3. 判断の根拠を共有しよう <ul style="list-style-type: none"> ・判断の根拠になった部分を赤で囲む。 ・グループで判断した理由を発表し、気付いたことを記入する。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「こんなつもりじゃなかったのに」とならないためには、どうすればよいでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・メッセージを送る時、見る時、どんなことに気を付けたらよいかを考える。 	○カード教材
5分	4. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でカード教材と一緒に体験してみるように伝える。 	

授業のねらい

- ・災害時の情報の見極め方を考える。
- ・SNSを通じて防災に貢献できることに気づき、防災への意識を高める。

授業の流れ (50分)

時間	学習活動	準備物等
15分	<h3>1. 情報防災訓練をやってみよう</h3> <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>あなたの住む街（田山市）に大型の台風が近づいてきています。あなたは家族と一緒に自宅の2階にいて、スマホで様々な情報を集めています。下の4枚のカードの情報について、信頼性が高いかどうかを分類してください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・11:50の情報として①～④のそれぞれのトークに書かれた情報を読み、信頼性が高いかどうかを分類させる。 ・グループ、クラスで共有させる。 	○カード教材
15分	<h3>2. 情報防災訓練をやってみよう</h3> <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>時間が経ち、台風が通過したようです。下の4枚のカードの情報について、信頼性が高いかどうかを分類してください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・19:10の情報として⑤～⑧のそれぞれのトークに書かれた情報を読み、信頼性が高いかどうかを分類させる。 ・グループ、クラスで共有させる。 	○カード教材
15分	<h3>3. 情報をどう見極めるか</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに注目して情報を見極めればよいかを考えさせる。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>情報は、「だいふく」で見極めよう だ…誰が言ったのか い…いついったのか ふく…複数の情報を確かめたのか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧のトークの情報を「だいふく」で考えさせる。 	
5分	<h3>4. まとめ</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でカード教材と一緒に体験してみるように伝える。 	

授業のねらい

- ・「ネットの特性」を理解し、情報発信の際のリスクに気付く。
- ・自分が被害者や加害者になることを予防するために、自撮り写真に関する「法的知識」を学ぶ。

授業の流れ (50分)

時間	学習活動	準備物等
10分	<p>1. 考えてみよう① 発信する際のリスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3～5名のグループとなる。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「カフェに行ったこと」を投稿したいと考えている場合、どんな写真を発信するとリスクがあるか考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で考えさせた後、グループで理由を説明させる。 	○カード教材
20分	<p>2. 考えてみよう② どのように対応する？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カフェに行った写真をSNSに投稿したところ、メッセージが送られてきた場合の対応方法を考えさせる。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もし、写真を要求されたら、どのように断るかを考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で対応方法を考えた後、グループで対応方法を説明させる。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もし、この後、トラブルに巻き込まれそうになったら、どのタイミングで誰に相談するかな？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人でどのようなトラブルに合う可能性があるかを考え、相談相手や相談するタイミングをグループで共有させる。 	
15分	<p>3. 考えてみよう③ 犯罪のリスクの判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSに関する法律について考えさせる。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>罪に問われることか、問われないことか考えてみましょう。また、罪に問われる場合はその罰則も考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で考えさせた後、グループで考えを共有させる。 	○カード教材
5分	<p>4. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つのワークから学んだ「SNSによる社会への発信」のリスクとポイントを伝える。 	

ねらい

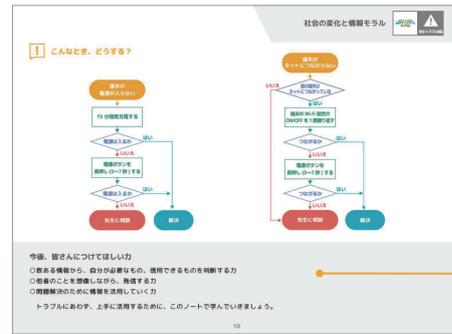
- ・ AIやIoT、ロボットなどの発達で自分たちの暮らしがどのように変化するかについて考える。
- ・ 端末を使用した学びのイメージを膨らませ、そこで大切にすべきことを考える。
- ・ 端末を活用する際に想定される様々なトラブルについて考える。
- ・ 端末を上手に活用するためのルールを考え、それらを守ろうとする。



- ・ 便利になっていけばよいことについて、家や学校といった場所の視点、スポーツ・勉強・遊びといった活用の視点、お年寄りや子どもといった人の視点など様々な視点から考えさせる。

- ・ 家庭での学びについては、端末を持ち帰ることができかどうかなど、各学校の実態に応じて内容を説明する。

- ・ 中学校では端末は学校から貸与されたもの、高校では家庭で購入したものであることを確認し、学びのために使うこと、そして大切に使うことの重要性を伝える。



次のようなことに気を付けさせる。

- ・ テキストメッセージで悪口を書く
- ・ 勝手に人の写真を撮る
- ・ 著作権を侵害するような写真や動画を使う
- ・ オンライン学習中に勝手に友達の写真を保存する
- ・ オンライン学習中に指示と違うことを行っている
- ・ 目を近づけて、長時間使用する
- ・ 遅い時間まで使用する

- ・ パスワードの管理は今後も必要になってくることであり、できるだけ推測されにくいものをつくり、他人に伝えないようにすることの重要性を伝える。また、端末を使用する姿勢や長時間使用による眼精疲労に注意させる。

自分と相手との違い

学活

総合

道徳

国語



P6のモデル
指導案を参考に
してください。

ねらい

- ・同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。
- ・文字だけで伝えると、感情が伝わらないので、誤解されやすいことに気付く。

- ・自分の「嫌な言葉」が相手の「嫌な言葉」と同じではないことに気付くようにするため、グループやクラスで「嫌な言葉」を共有させる。

- ・自分が「嫌ではない」と思っていたことが、相手にとっては「嫌なこと」であるなど、理由とともに違いを認識するようにさせる。

- ・「自分が一緒に写っている写真を公開される」がトラブルになる可能性があることに気付かせる。
- ・「真面目だね」の文字だけで伝えた場合と、顔を見ながら伝えた場合の伝わり方の違いについて、実演し、考えさせる。

こんなつもりじゃなかったのに

学活

総合

道徳



P7のモデル
指導案を参考に
してください。

ねらい

- ・コミュニケーションにおける危険（リスク）を予想することの重要性に気付く、自分と他者との危険（リスク）の予想の「違い」に気付く。
- ・ネットの特性を踏まえ、危険（リスク）を回避しながら、自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法について考える。

- ・同じトーク内容でも、1対1の場合と、1対34（クラスでのやり取り）の場合では、人数が多いほど、多様な捉え方をする人が増えるので、自分の意図とは違う捉え方をされる可能性が高まることに気付くようにする（グループメッセージでは「真面目」という言葉が異なる意味で伝わるリスクが高くなっている。）。

- ・5つのトークをそれぞれ15秒で「この先、グループの会話がどうなるか」を予想させる。

- ・判断の根拠を共有することで、危険（リスク）を予想する際の判断の視点に気付くようにする。例えば、グループのサイズ（人数）、画面キャプチャ（画面全体を静止画で保存すること）での写真転送、送信時間、メッセージの内容など、判断の視点を説明する。

ねらい

- ・自身の行動を記録して、ネットやゲームの「使いすぎ」や「適切な行動」について考える。
- ・使いすぎないためのルールを考える。



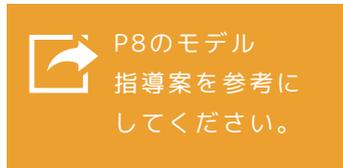
- ・ネットやゲームを「使いすぎ」てしまう経験を共有させる。
- ・1週間の時間の使い方について記録させ、友達や家族と共有させる。
- ・1週間のネットやゲームに費やした時間を計算させ、もしその時間を他のことに使うとしたら、何に使えるかを考えさせる。

- ・1週間の記録を見直し、どうすれば改善できるかを考えさせ、もう1週間、記録を継続できるとよい。

- ・チェックリストを実施し、自分が使いすぎてないかどうかを判断させる。ただし、チェックが多い生徒が一概に「ネット依存」とは言えないことに留意する。(あくまで参考として扱う)

ねらい

- ・災害時の情報の見極め方を考える。
- ・SNSを通じて防災に貢献できることに気づき、防災への意識を高める。



- ・①は市役所のアカウントで公式マークがあり、情報の信頼性は高いと言える。②の情報だけだと、本当に大学の先生かどうかはわからない。③もこれだけだと本当かどうかわからない。④のように誰かから聞いた情報は信頼性が低く、複数の情報を確かめる必要がある。

- ・⑤も伝聞であり情報の信頼性が低い。この情報にはコメントがたくさんついているのでそれらをよく確認することも重要。⑥はいろいろな防災情報をまとめたものだが、確証性を高めるために複数の情報を確かめる必要がある。⑦はニュースサイトの公式マークがあり、信頼性は高いと言える。⑧は発信された時間に注意。11:50の時点では避難が必要だが、19:10にこの情報を拡散してしまうと、間違った情報になる可能性がある。

災害時のSNSの使い方②

学活

社会

総合

道徳

ねらい

- ・ 災害時の情報の見極め方を考える。
- ・ SNSを通じて防災に貢献できることに気づき、防災への意識を高める。



- ・ ①は情報発信より自分の安全を確保することを優先するべき。②は自宅の位置情報が特定される可能性があるので注意する必要がある。③は信頼性の高い情報元からの情報を提示しているところがよい。④のようにどこがどのような状況なのかを伝えるのは防災の観点から有効。

- ・ ⑤は友達の自宅の位置情報が特定されてしまうので発信は控えたほうがよい。⑥は情報元の提示がないので情報の信頼性が低い。⑦は、田山橋下が水没しているという具体的な場所がわかり防災の観点から有効。⑧の倒木はどこの場所なのかかわからない。

災害時のSNSの使い方③

学活

社会

総合

道徳

ねらい

- ・ 災害の種類によって必要な情報が変化することを意識させる。
- ・ 災害時に信頼できる情報をどのように入手し、共有するかをあらかじめ考えておくことの重要性に気づかせる。



- ・ 台風のような「あらかじめ予測できるような災害」と地震のような「予測が難しい災害」では、必要な情報が違ってきます。台風では、避難に関する情報をあらかじめ考えておくことが重要です。しかし、地震では、自宅以外の場所で被災する可能性もあり、家族との安否情報の共有なども重要になります。どちらの場合でも、最新の情報を確認することが重要になります。あらかじめ、どのように情報を収集・共有するかを考えておきましょう。

- ・ 自宅近くの被害想定の情報や自宅近くの避難経路の情報などは、「行動する前に確認しておく情報」になります。また、避難所の最新情報、警戒情報、被害状況、気象情報、交通情報、インフラの情報などは、「信頼できる最新の情報」になります。さらに、家族などの安否情報や避難状況などは、「共有するための情報」になります。こうした情報をどのように得ることができるかを考えて、「情報防災バッグ」として準備することが大切です。

ねらい

・ 具体事例を通して、混同しがちな「信用」と「信頼」の違いを考えることで、信用とは何かを考える。

「信頼」と「信用」

1 あなたが「生徒会選挙」で投票するときは、何を重視しますか？
投票するときに重視する点にならべてみましょう。

2 将来、あなたは「お金を貸す仕事」につきますか。
お客さんにお金を貸すとしたら、何を重視しますか？
重視する点にならべてみましょう。

「信頼」と「信用」

「信頼」と「信用」は、似ているようで違うところもあります。「信頼」とは、主観・精神的な面に基づき、判断は、精神的・主観的な面があり、判断は、精神的・主観的な面があります。一方「信用」とは、客観・物質的な面に基づき、判断は、物質的・客観的な面があります。例えば、「信用」金庫はあるが、「信頼」金庫はないように、特にお金に関する問題は「信用」が重要であり、信用を積み重ねることの重要性について気づかせる。

・ 「生徒会選挙」と「お金を貸す仕事」の2つの場面で何を重視するかを比較させ、信頼と信用のちがいについて考えさせる。どちらの場面が「信頼」の意味に近く、どちらの場面が「信用」の意味に近いかを考えさせることで、信頼とは何か、信用とは何かについて考えさせる。

・ 「信頼」とは、未来の行動を信じ期待する、判断は、精神的・主観的な面があり、「信用」とは、過去の実績や成果に基づき、判断は、物質的・客観的な面があることに気づかせる。例えば、「信用」金庫はあるが、「信頼」金庫はないように、特にお金に関する問題は「信用」が重要であり、信用を積み重ねることの重要性について気づかせる。

ねらい

・ キャッシュレス決済のメリット・デメリットを様々な立場から多面的に考えることで、「見えないお金」と上手につきあう方を考える。

「見えないお金」と上手につきあおう

1 現金を使わないキャッシュレス決済は、メリット・デメリットがあります。次のカードを、お店（事業者）と消費者の観点から、メリット・デメリットでわけてみましょう。

2 どの分業で「ポイントがもらえる」は、どちらにもメリットがあることがあります。

3 「消費者」として、キャッシュレス決済を使う場合に、気をつけなければならないことはなんですか？

「信頼」と「信用」

キャッシュレス決済が普及するにつれて、私たちの生活を便利にしてくれています。特に消費者のメリットとしては、現金を持ち歩かなくても支払いが済む手軽さや現金屋での不都合がなくなるなどが挙げられます。一方で、システムトラブルがあると思えないほどの支払いが受けられない場合もあります。特に現金にないのが「ポイント」です。ポイントを得られることは消費者のメリットと考えることができます。お店の決済で使えるポイントを受け取ることで、お店のポイントになってもらったり、ポイントキャンペーンで高額な買い物をしてもらいやすくなったりします。キャッシュレス決済が普及するにつれて、ぜひお店や事業者側の視点でも考えてみましょう。

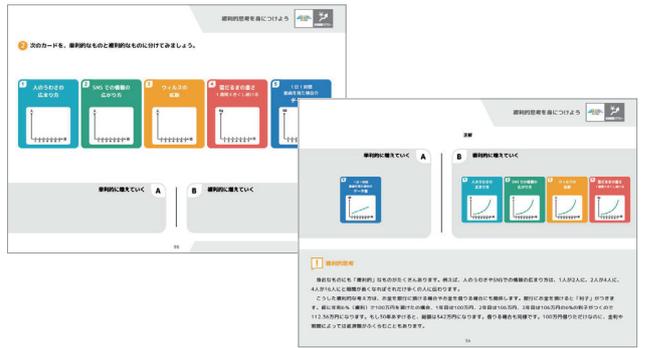
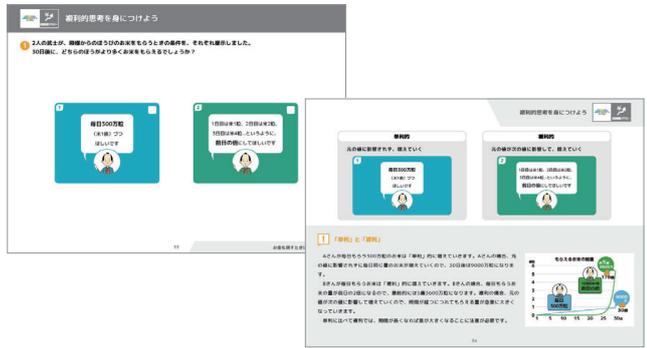
・ 日本では、現金を落としても返ってくる「治安のよさ」や偽札かどうかを気にしなくてもよい「日本円の信用の高さ」などからもキャッシュレス決済が広がらない要因であることにも触れながら、消費者、事業者のそれぞれの立場から、メリット・デメリットを考えさせる。

・ ポイントはお店や事業者側にもメリットがあり、ポイントを配ることで、次からもそのサービスや決済方法を使おうとする消費者を増やすことができるという点を意識させ、きちんと管理していくことの重要性ときちんと管理できないと、それがあなたの実績になってしまい、信用を得ることができなくなることも意識させる。

複利的思考を身につけよう

ねらい

・「複利」ではなく、「複利的思考」を理解することを目指し、情報の拡散などの身近な複利的事例を扱い、期間によって単利と複利では大きな差ができることをイメージさせる。



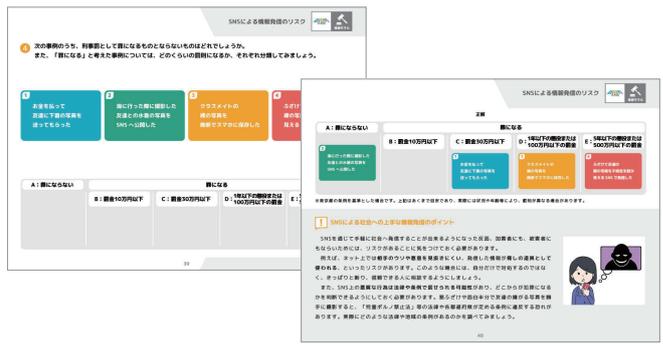
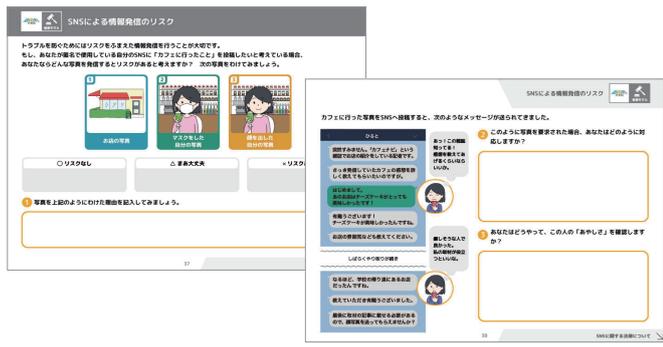
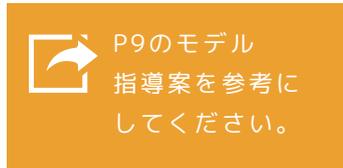
・ Aさんのように元の値に影響されず、増えていくことを「単利的」、Bさんのように元の値が次の値に影響して、増えていくことを「複利的」ということを押さえる。単利的と複利的を比べると、期間が短いと差は少ないが、期間が長いと差は大きくなることに着目させ、もし、2ヶ月続けば、もっと大きな差になることに気づかせる。

・ 複利的な考え方は、身近な現象にも当てはまることを紹介するとともに、銀行にお金を預けたり、借りたりする場合には、金利が「複利」で計算されることを紹介する。特に、お金を借りる場合には、きちんと返済できないと、支払い総額が「複利」で増えてしまうことにも気づかせる。

SNSによる情報発信のリスク

ねらい

・ 「ネットの特性」を理解し、情報発信の際のリスクに気付く。
 ・ 自分が被害者や加害者になることを予防するために、自撮り写真に関する「法的知識」を学ぶ。

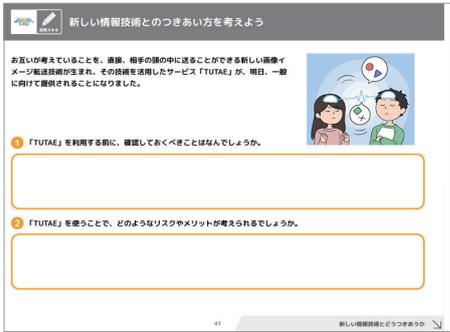


・ 人によってSNSで発信しても良いと思う写真が異なるということを知り、グループやクラスで「SNSで発信しても良い写真」を共有させる。
 ・ 悪意の有無がわからない相手から写真を要求された場合の対応方法について意見を共有し、認識させるようにする。また、相談相手や相談のタイミングについても具体的にイメージさせ、具体的な対応方法のイメージを持たせるようにする。

・ 悪ふざけであっても法律違反の行為にあたる可能性があることに気づかせる。
 ・ 被害者や加害者になることを防ぐためにも、法律や各地域の条例についても確認しておくことの大切さを認識させる。
 ・ SNSで情報を発信する際のリスクとポイントについて、ワークの内容を振り返りながら、認識させる。

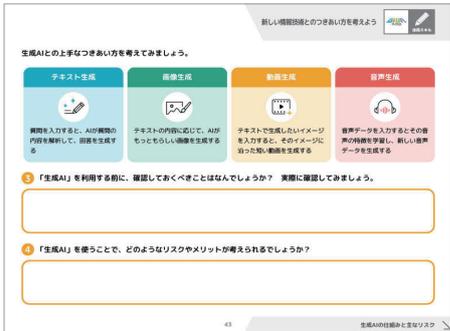
ねらい

・生成AIなどの新しい情報技術とのつきあい方を考えることにより、将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できる力を育てる。



・これからも新しい情報技術が生まれ、様々なサービスが生まれてくることに触れ、こうした新しい情報技術やサービスを上手に活用するためには、どのようなことに気をつければよいかを考えさせる。

・①仕組みや規約の理解、②リスクの想像、③利活用の方法の順で考えることが重要であり、リスクを考えずに活用することやリスクを過度に警戒しすぎて使わないことについて、意見を共有させる。



・実際にいくつかの生成AIについて調べさせる。特に、その仕組みとメリットやリスクについて考えさせる。

・生成AIでは、事実とは異なる内容や文脈と無関係な内容が生成されることをハルシネーション（幻覚）と呼び、インターネットなどから収集したビッグデータを学習するため、生成されたデータに偏りや誤った情報、古い情報が含まれてしまう可能性があることに気づかせる。



端末を使う前に

はじめに

「端末を使う前に」では、端末を上手に使うために必要な基礎知識について学びます。特に、ブラウザで利用できるWEB アプリやクラウドサービスの上手な活用や様々なリスクに対応するためのリスクマネジメント、さらにはトラブルが起きた時にどう対応すればよいかというクライシスマネジメントについて学びます。



WEBアプリやクラウドを活用しよう

端末を使った学習では、WEB アプリやクラウドを活用する機会が多くなります。ここでは、WEB アプリやクラウドの仕組みに目を向けながら、普段、どのようなものを利用しているかについて考えます。WEB アプリやクラウドでは、インターネットにつながっていれば、どの場所でもどの端末でもそのサービスを活用することができますが、個人情報の取扱いやセキュリティに気を付ける必要があることも意識させます。

使う前に # 活用スキル # やってみよう
消費者 # つくり手



AIと探究的な学び

探究的な学びのプロセスは、「課題の設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」ですが、そのうち、AIで代替できるものはどれでしょうか。最近の生成AIでは、「〇〇について教えて」「〇〇についてまとめて」「〇〇をつくって」と言えば、ある程度のものを生成してくれるようになりました。では、生成AIにできないことはなんでしょうか。本教材では、こうした「AI時代に人間に求められること」に気づくことを目的としています。

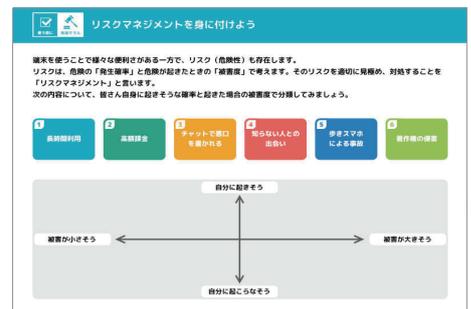
使う前に # 活用スキル # 2分類 # 消費者
市民 # つくり手



リスクマネジメントを身に付けよう

「リスク」は発生確率と被害度で考えます。被害度は甚大でも全く起きない事象よりも、被害度は低くとも頻繁に発生する事象の方が優先的に対応すべきリスクになります。ここでは、生徒達自身に自分のリスクを考えさせることで、優先的に対応すべきリスクは何なのかに気付かせます。友達と共有しながら、リスクについて議論する機会とするとよいでしょう。

使う前に # 情報モラル # 2分類以上
消費者 # トラブル全体



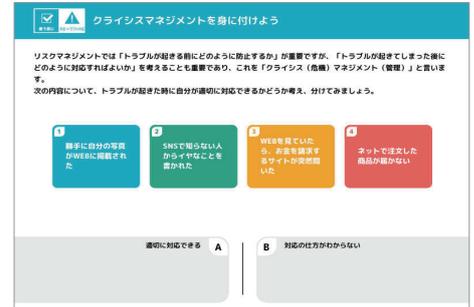


端末を使う前に

クライシスマネジメントを身に付けよう

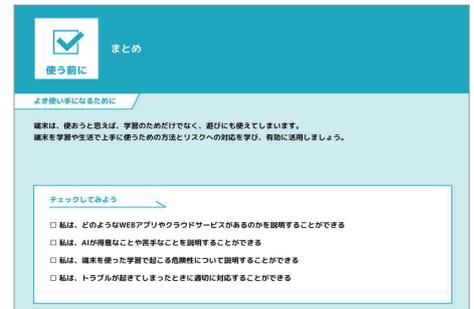
トラブルが発生してしまった時にどう対応するか、という視点も大切です。ここでは、生徒達自身にトラブルが発生してしまった場合の対応方法について考えさせます。もちろん、解説で示された対応方法はケースバイケースになりますが、基本的な対応方法を身に付けさせ、困ったら大人に相談するという意識させます。

使う前に # 情報セキュリティ・トラブル対応
2分類 # 消費者 # トラブル全体



まとめ

端末を上手に使うためには、「上手に使う力」とともに、「リスクに対応する力」を身に付ける必要があります。「トラブルは必ず起こるものだ」という意識を持ち、それらを起こさないための力（リスクマネジメント）と、それらが起こってしまった時に対応する力（クライシスマネジメント）を身に付けてほしいと思います。



情報技術 × 社会問題

現在、日本や世界では、気候、食糧、エネルギー、医療、労働、教育、多様性、災害など様々な社会問題が存在しています。これらの社会問題に対して、シビックテック（Civic Tech、シビック：市民+テック：テクノロジーの造語）と呼ばれるように情報技術で解決していこうという試みもあります。ここでは、ぜひこうした情報技術を社会問題の解決に役立てるという試みを意識させてほしいと思います。

つくり手 # 情報技術 # 社会問題の解決

